

て、すべて官吏を任命し、其の後カンカリを従へ、一軍をしてカシュガル及びコータンの諸國を征せしめ、他の軍をしてキルギスに復仇せしめ、ビシュバリクを取り、またフェルガナ及びトランス・オキジアナを服せしめ、サルタン・オスマン【サマルカンドの】の祖先はこゝに臣屬するに至れり、此等の征伐の後彼は其の將エルヌズ (Ernouz) をホラズムにつかはして惨虐を演じ、アトシズ・ホラズムシャー (Atsiz Khorazmschah) はエルヌズに降服を請ひ、グルカンに年々衣服家畜および三萬デナールを納むべきを約しぬ。エルヌズは之を諾して退きしが、其の後幾ならずしてグルカンは死歿したり」と (d'Ohsson. *Histoire des Mongols*, I. 442-443) 記せり。此の如く西方史籍は悉く大石がツルキスタンの地を歸服せしめて後、初めて一一四一年にトランス・オキジアナに侵入せしことを記せるなるが、然も此の侵略の後にグルカンの位に上り、國を開きしことを記せるものはあらず。ラシッドウドデンの如きは明らかに上記の如くツルキスタンを征服するやグルカンの號をとれりと記し、特に此のことについて詳記せざる人々も、みな此れが其の以前にありたることを暗示せり。遼史本文の年紀の取るに足らざるは既に述べたる所なれども即位の事實が一一四一年に於けるサマルカンド征服の以前にありしか、或は本文の記せる如く其の以後なりしか、而して其の何れなりとするも之を何年に置くべきかについては、こゝに論述する所なかる可らず。此の問題を決定するは然く難事に非ず、何となれば大石が葛兒罕の位に即きてより、延慶の三年間と、其の年改元して康國と稱してよりの十年間と合して十二年の間位にありしことは争ふ可らざれば、もし大石の死時にして明らかに知り得べくんば、之より十二年を逆算したる年は即ち彼が即位の年にして、従つてまた西遼開國の年ならざる可らざればなり。